

官報

號外 昭和十三年三月十六日

○第七十三回 衆議院議事速記録第一十八號

昭和十三年三月十五日(火曜日)

午後一時二十三分開議

議事日程第二十七號

昭和十三年三月十五日

午後一時開議

質問

一 工場其ノ他職場ニ於ケル入浴設備規制定ニ關スル質問(小池四郎君提出)

二 東京市小河内貯水池築設ニ關スル質問(中村高一君提出)

三 賣藥制度ニ關スル再質問(清水留三郎君提出)

第一 有價證券引受業法案(政府提出、貴族院送付)

第二 臨時農村負債處理法案(政府提出)

第三 日滿司法事務共助法案(政府提出)

第四 民法中改正法律案(政府提出)

第五 民事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第六 外國裁判所ノ嘱託ニ因ル共助法

第七 陸上交通事業調整法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 有價證券引受業法案(政府提出)

第三 検察廳法案(野田文一郎君提出)

第四 民法中改正法律案(政府提出)

第五 民事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第六 外國裁判所ノ嘱託ニ因ル共助法

第七 陸上交通事業調整法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第八 青年禁酒法案(坂東幸太郎君外十八名提出)

第九 護國共同組合法案(池田秀雄君外一名提出)

第十 護國共同組合法案(篠原義政君外四名提出)

第八 青年禁酒法案(坂東幸太郎君外十八名提出)

第九 護國共同組合法案(池田秀雄君外一名提出)

第十 護國共同組合法案(篠原義政君外四名提出)

第十一 酒造税法中改正法律案(古島義英君提出)

第十二 入營者職業保障法中改正法律案(淺沼稻次郎君外四名提出)

第十三 船員保險法案(米窪亮君外一名提出)

第十四 裁判所構成法改正法律案(野田文一郎君外二十六名提出)

第十五 檢察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第十六 船員保險法案(米窪亮君外一名提出)

第十七 船員保險法案(米窪亮君外一名提出)

第十八 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第十九 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第二十 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第二十一 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第二十二 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第二十三 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第二十四 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第二十五 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第二十六 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第二十七 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第二十八 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

第二十九 検察廳法案(野田文一郎君外二十六名提出)

工場其ノ他職場ニ於ケル入浴設備法規制定ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和十三年二月十五日
提出者 小池 四郎
工場其ノ他職場ニ於ケル入浴設備法規制定ニ關スル質問主意書
規制定ニ關スル質問主意書
工場其ノ他職場ニ於ケル入浴設備法規制定ニ關スル質問主意書
輸交通業等ニ從事スル労務者ハ夜業又八殘業ノ爲歸宿後入浴ノ機ヲ逸スルノ現狀ナルヲ以テ此ノ種ノ労務者ノ疲勞ヲ回復シ體力ヲ維持スル爲是等工場其ノ他ノ職場ニ入浴設備ヲ爲スノ必要アリト信ス然ルニ現在入浴設備ハ遞信、鐵道及海軍各省關係ノ工場其ノ他ノ職場並一般鑛山ニ之ヲ見ルニ止マリ一般工場ニハ殆ど入浴設備ナシ仍テ政府ハ相當ナル入浴設備ヲ爲サシムヘキ法規ヲ制定スル考ナキヤ厚生省當局ノ答辯ヲ求ム

一 工場、鑛山及運輸交通業等ニ從事スル労務者ノ疲勞回復、體力維持ノ爲ノ入浴設備ニ就テハ鑛山及比較的大規模ノ工場或ハ寄宿舍ヲ有スル工場ニ於テ既ニ其ノ實例歟カラズ右ハ労務者ノ福利施設トシテ其ノ設置ヲ勸奨スルコトハ必要ナルモ今直ニ法規ヲ以テ之ヲ強化ノ要スルコトニ就テハ相當考究ヲ要スルモノト認メラル

二 病菌感染ノ危険ヲ防止スル爲人浴設備ノ容量、浴場ノ清淨度等ノ基準ヲ法規ニ依リ規定スルコトニ就テハ相當考究ヲ要スルモ右ハ入浴設備ヲ勸奨スルニ當リ充分留意スル方針ナリ

三 一 陸軍ニ於テハ部隊ノ一部ニ市井販賣ニ係ル浴水濾過機ヲ使用シアルモ使用部隊數少ナキト之ガ使用ノ日時短力キトニ依リ適確ナル實績ヲ得ルニ至ラザルモ肉眼のニ汚濁浴水ヲ清澄化スルハ相當効果アルモノノ如シ然ルニ色調臭氣及化學的溶質ハ殆んど除去セラレタルノミナラズ細菌學的ニモ其効果大ニラズ依ヅテ當局ニ於テモ浴水清淨化ニツキ一層有効ナル裝置ヲ研究中ナリ

二 遞信省ニ於テハ昭和十年度ニ於テザルノミナラズ細菌學的ニモ其効果大ニラズ依ヅテ當局ニ於テモ浴水清淨化ニツキ一層有効ナル裝置ヲ研究中ナリ

三 一日五十人以上入浴スル現業局百二十二局ニ對シ大門式濾過機ヲ設備セリ本機運動ノ結果ハ浴水ハ外觀上常ニ清淨ヲ保持シ其ノ成績良好ナリ

ハ 鐵道省ニ於テハ昭和十二年度ニ於現業從事員用浴場設置數三千三百七十一箇所ナリ浴水ノ濾過装置ハ未ダ設備スルニ至ラザルモ浴水ノ補給ヲ潤澤ニシ、シャワーニ依ル清洗、傳染性疾患者ノ入浴禁止等ヲ爲シ常ニ清潔保持ニ留意中ナリ

右及答辯候也
昭和十三年三月十五日

陸軍大臣	杉山 元
遞信大臣	永井柳太郎
鐵道大臣	中島知久平
厚生大臣	侯爵木戸 幸一

主意書 提出者 中村 高一 東京市小河内貯水池築設ニ關スル質問

右成規ニ據り提出候也
昭和十三年二月十九日

四 東京市ノ小河内貯水池技術委員會ハ工事施行ニ付如何ナル答申ヲ爲シタリヤ
五 本事業ノ起債ハ今日ノ時局ニ於テモ認可スル方針ナリヤ
六 東京市カ決定シタル村民ニ交付セラルヘキ用地買收費並地上物件移轉補償金ハ相當ナリト思料セラルルヤ
七 村民ノ移住地ニ付如何ナル處置監督ヲ爲スヤ

東京市小河内貯水池築設ニ關スル質問主意書
東京市第二水道擴張事業トシテ東京府西多摩郡小河内村及山梨縣北都留郡丹波山村同小菅村ニ建設セラル貯水池ノ工事ニ付テハ昭和十一年七月二十二日内務大臣ヨリ認可セラレタル所ナルカ認可書ニ依レハ左ノ如キ附帶條項アリ即チ更メテ全部ニ瓦リ實施設計ヲ樹テ認可ヲ受クルコト

一 實施設計並工事施行ニ付テハ必要ナル組織及機關ヲ完備シ慎重ナル調査攻究ヲ遂クルコト
一 許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ昭和十年内務省令第三十六號河川堰堤規則第一工事施行ノ認可ノ日ヨリ起算シ六箇月以内ニ堰堤ニ關スル工事ニ著手シ著手ノ日ヨリ十年以内ニ竣工スルコト仍テ左ノ事項ニ對シ政府ノ明確ナル答辨

昭和十三年三月十五日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿	衆議院議長 小山松壽殿
----------------	-------------

〔別紙〕
衆議院議員中村高一君提出東京市小河内貯水池築設ニ關スル質問ニ對スル答辯書

第一ニ關シテ
東京市ハ實施設計並工事施行ノ認可ヲ請ヲ爲シタリヤ
何レモ申請済ナリ
第二ニ關シテ
工事施行ノ認可指令前ニ工事ニ著手スルコトハ失當ナリ
現ニ東京市ニ於テ施工シツアルハ材料運搬道路ニ關スル工事及堰堤位置ニ於ケル地質ノ調査ナリ道路工事ハ現ニ其ノ大半ヲ竣功シ地質調査ハ表土ノ取除キ及試錐中ナリ是レ等ノ準備工事又ハ調査ハ何レモ小河内貯水池建設ノ本工事ニ非ラス

第三ニ關シテ
東京市ハ實施設計並工事施行ニ付小河内貯水池建設事務所並技術委員會ヲ設ケタリ小河内貯水池建設事務所ニ付テハ既ニ所長以下職員ノ任命ヲ了シ事務ヲ處理セシメツツアリ技術委員會ハ小河内貯水池築造ニ關スル技術上ノ重要事項ヲ調查審議スルヲ目的トスルモノニシテ委員長及委員若干名ヲ以テ組織ス委員ハ水道局主管助役水道局長小河内貯水池建設事務所長及學識經驗アル者ヨリ任命又ハ囁託スルモノニシテ委員ノ現員ハ八名ナリ

第四ニ關シテ
技術委員會ハ小河内貯水池堰堤設計ノ基礎ヲ爲ス左記事項ニ付審議ヲ行ヒ其ノ内第一項乃至第五項ニ對シテハ既ニ審議ノ結果ヲ答申シ第六項及第七項ニ對シテハ目下審議中ニ屬ス

右成規ニ據り提出候也
昭和十三年二月二十八日

賣藥制度ニ關スル再質問主意書 内務大臣 末次 信正

二 堆砂深
三 揚壓力係數
五 地震ニ因ル動水壓
六 「コンクリート」ノ許容應力
七 「セメント」

第五ニ關シテ
第二水道擴張計畫ニ依ル第一期事業ハ總工費三九、五〇〇、〇〇〇圓ノ内三九、二三七、〇〇〇圓ヲ起債ニ求メントスルモノニシテ昭和十一年度分ハ五、七三七、〇〇〇圓ヲ許可指令シ昭和十一年度分ハ稟請額六、〇〇〇、〇〇〇圓ニ對シ起債抑制方針ニ依リ事業ノ緊急性ヲ検討シ工事實施上眞ニ必要ナル限度ニ減額許可ノ見込ナリ

第六ニ關シテ
用地買收及地上物件移轉補償ハ東京市ト關係者トニ於テ協議ノ上決定スルナルヲ以テ用地買收費及地上物件移轉補償金ハ相當額ニ決定セラルルモノト思料ス

第七ニ關シテ
村民ノ移住地問題ニ付テハ東京府知事ニ於テ考慮ヲナシツ、アルモ尙一段ト督勵ヲ加ヘ遺憾ナキヲ期セントス
右及答辯候也
昭和十三年三月十五日
厚生大臣 侯爵木戸 幸一
内務大臣 末次 信正
賣藥制度ニ關スル再質問主意書
昭和十三年二月二十八日
提出者 清水留三郎
賣藥制度ニ關スル再質問主意書
昭和十三年一月二十五日本員提出「賣藥制度ニ關スル質問主意書」ニ對シ同年二月

十五日政府ヨリ答辯書ヲ受領シタルカ該
答辯書中「全購聯ノ賣藥製造ニ關スル件」
ニ付再質問ヲ爲スノ要アリト認メ左記各
項目ニ付テ更ニ政府ノ答辯ヲ要求ス
一、「全國購買組合聯合會ハ……自ラ工
場ヲ所有セザル關係上他ノ製造工場ヲ
使用シ同聯合會所屬ノ藥劑師ノ指揮監
督ノモトニ同工場ニ於テ賣藥ヲ調製ス
ルモノニシテ云々」ハ本員ノ質問ニ對
スル政府ノ答辯ナルカ全國購買組合聯
合會ノ該工場ニ於ケル賣藥ノ調製ハ全
購聯自己ノ計算ニ於テ之ヲ爲シツツア
リヤ又ハ如何ナル形式ヲ採リツツアリ

二、政府ノ答辯書ニアル使用シツツアル
他ノ製造工場ノ位置、賃借條件及該製
造工場ヲ使用シ始メタル最初ノ年月日
蚊賣藥製造ヲ該製造工場ニ於テ爲スニ
當リ賣藥法ニ依ル手續ヲ爲シタル行政
官廳、行政官廳ノ責任者氏名及免許ヲ
受ケタル年月日

三、全購聯カ現ニ發賣シツツアル賣藥ノ
種類及名稱並最近一箇年間ニ於ケル各
種目ノ數量及其ノ金額

四、全購聯カ現ニ發賣シツツアル賣藥ノ
發賣免許ヲ受ケタル行政官廳及免許ヲ
受ケタル各種目別年月日

五、「尙產業組合トノ關係ニ就テハ互ニ
其ノ相剋ヲ避ケ共ノ間ニ協調方針ヲ採
ルベキコトニ決シ地方長官ニモ此ノ方
針ヲ通達シテ之ガ遂行ニ萬遺憾ナキヲ
期シツツアリ」トハ本員ノ質問ニ對ス
ル政府ノ答辯ナルカ政府カ地方長官ニ
通達シタル年月日及通牒文ノ内容
右及質問候也

昭和十三年三月十五日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
衆議院議長小山松壽殿
衆議院議員清水留三郎君提出賣藥制度ニ

(一) 賃借條件
 (二) 手續官廳
 (三) 大阪府知事
 (四) 参天堂株式會社方
 (五) 大阪市東淀川區下新庄町六八五ノ七

(一) (ホ) 免許年月日
 (二) (八) 使用開始年月日
 (三) (十一) 十一年十一月二十日
 (四) (大阪府知事) 十一年十一月二十日
 (五) (参天堂株式會社) 十一年十一月二十日
 (六) (大阪府) 昭和九年十一月二十日
 (七) (大阪府) 昭和九年十一月二十日
 (八) (大阪府) 昭和九年十一月二十日

組合胃腸錠 同 同
 組合皮膚藥 同 同
 組合小兒せき藥 同 同
 組合あかぎれ膏 同 同
 組合外傷藥 同 同
 組合驅蟲錠 同 同
 組合腹痛錠 同 同
 組合頭痛錠 同 同
 組合下痢止劑 同 同
 組合胃散 同 同
 組合小兒救命丸 同 同
 組合痔瘡軟膏 同 同
 組合痔瘡座藥 同 同
 組合赤煉藥 (きつけぐすり) 同 同
 組合共榮丸 同 同
 組合あんま膏 同 同
 組合コーポン錠 同 同
 組合赤チンキ 同 同
 右及質問候也

昭和十三年三月十五日

種目(方名)別	免許年月日	備考
組合胃腸錠	昭和九年十一月十六日	外傷藥、組合驅蟲錠、組合腹痛錠、組合小兒救命丸、組合痔瘡軟膏、組合赤煉藥、組合共榮丸
組合赤チンキ	昭和九年十一月十六日	ムルモ其ノ金額並ニ數量ニ付テハ詳細調査中
組合小兒救命丸	昭和九年五月二十四日大阪府ニ於テ参天株式會社ニ免許ノ處今般讓受免許	シタル大體ノ總額ハ百万圓程度ト認ムルモ其ノ金額並ニ數量ニ付テハ詳細調査中
組合赤煉藥	昭和九年十月二日大阪府ニ於テ参天株式會社ニ免許ノ處今般讓受免許	シタル大體ノ總額ハ百萬圓程度ト認ムルモ其ノ金額並ニ數量ニ付テハ詳細調査中
組合共榮丸	昭和九年十月三日	シタル大體ノ總額ハ百萬圓程度ト認ムルモ其ノ金額並ニ數量ニ付テハ詳細調査中

四、全購聯カ現ニ發賣シツツアル賣藥ノ
各種目(方名)別及其ノ免許年月日ハ次
ノ如シ

昭和九年十月二日大阪府ニ於テ参天株式會社ニ免許ノ處今般讓受免許

一昨十四日常任委員理事補闕選舉ノ結果左 ノ如シ	理事倉成庄八郎君（委員吉植庄亮君昨 十四日理事辭任ニ付其ノ補闕）
決算委員	一昨十四日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常 任委員左ノ如シ
第一部選出豫算委員	原 惣兵衛君
第一部選出決算委員	國光 五郎君
第四部選出決算委員	松木 弘君
第五部選出決算委員	山口 忠五郎君
第八部選出決算委員	生田 和平君
一昨十四日委員長及理事互選ノ結果左ノ如 シ	渡君
兵役ノ義務ナカリシ者等ニシテ支那事變 ニ於テ陸軍部隊ニ編入セラレタルモノノ 身分取扱ニ關スル法律案（政府提出）委員 委員長	百瀬 渡君
理事	大島 寅吉君
北原阿智之助君	伊藤東一郎君
川崎巳之太郎君	森 荣藏君
計理士法中改正法律案（中野治介君外一 名提出）委員	正雲 正雄君
委員長	金澤 正雄君
理事	青木 亮貫君
内藤 正剛君	池田 清秋君
一昨十四日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如 シ	中野 治介君
飼料配給統制法案（政府提出）委員 辭任川合 直次君	一ノ瀬俊民君
昭和十二年法律第九十二號中改正法律案 (輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル 件) (政府提出 貴族院送付) 委員	勇君

重要鑑物増產法案（政府提出）外一件委員 辭任小山 谷藏君	辭任松田 正一君
社會事業法案（政府提出）外二件委員 辭任星島 二郎君	補闕岡崎久次郎君
○議長（小山松壽君）是ヨリ會議ヲ開キマ ス、本日ノ日程ニ掲ゲマシタ質問一乃至三 へ、何レモ政府ヨリ答辯書ヲ受領致シマシ タ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キマス	補闕岡崎久次郎君
○議長（小山松壽君）議事日程變更ノ緊急動議ヲ 提出致シマス、即チ此際日程第七ヲ繰上ゲ上 程シ、其審議ヲ進メラレントコトヲ望ミマス ○議長（小山松壽君）服部君ノ動議ニ御異 議アリマセヌカ	正雲 正雄君
○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メマ ス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシ タ――日程第七、陸上交通事業調整法案、 第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ 求メマス――委員長星島二郎君	星島 二郎君
第七 陸上交通事業調整法案（政府提 出） 第一讀會ノ續（委員長報告） 報告書	星島 二郎君
一陸上交通事業調整法案（政府提出） 右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノ ト議決致候此段及報告候也	星島 二郎君
昭和十三年三月十二日 （別紙）	星島 二郎君

（星島二郎君登壇）	（小字ハ委員會修正）
○星島二郎君 只今上程サレマシタ陸上交 通事業調整法案ニ於ケル委員會ノ經過ト結 果ヲ御報告申上げマス、本案ハ我國ノ交通 行政ト致シマシテハ、可ナリ劃期的ナル大 法案デアリマシタノデ、委員會ハ過ぐル五 日ヨリ十二日マダ、連日ニ瓦リ、委員諸君 ノ實ニ熱心ナル慎重審議ガ行ハレマシタ、 此場合如何ナル標準ヲ以テ裁定スルカトノ 質問ガアリマシタ、之ニ對シ政府ハ讓受價	陸上交通事業調整法案 第一讀會ノ續
陸上交通事業調整法案中左ノ通修正ス	本法ノ目的トスル所ハ、現在大都市其他特 殊地域ニ於キマシテ、陸上交通事業が併立 ノト密接ナル關係ヲ有スル兼業ノ處置 ノ面ニ左ノ各號ニ依ル調整ノ方法ヲ
第二條 主務大臣公私ノ増進ヲ圖リ陸上 交通事業ノ健全ナル發達ニ資スル爲陸 上交通事業ノ調整ヲ爲サントスクルトキ	整ノ區域、調整スベキ事業ノ種類及範 圍。竝ニ左ノ各號ニ依ル調整ノ方法ヲ
（星島二郎君登壇）	決定スベシ
（星島二郎君登壇）	一 會社ノ合併又ハ設立
（星島二郎君登壇）	二 事業ノ譲受又ハ譲渡
（星島二郎君登壇）	三 事業ノ共同經營
（星島二郎君登壇）	四 事業ノ管理ノ委託又ハ受託
（星島二郎君登壇）	五 連絡上必要ナル線路其ノ他ノ設備 ノ新設、變更又ハ共用
（星島二郎君登壇）	六 運賃又ハ料金ノ制定、變更又ハ協定 ノ協定
（星島二郎君登壇）	七 連絡運輸、直通運輸其ノ他運輸上 用品其ノ他ノ共同購入、共同修繕其 ノ他調整上必要ト認ムル方法
（星島二郎君登壇）	八 本法ハ地方鐵道、軌道事業、自動車 事業經營者ニ對シ前項第一號ノ事項ノ 實施ヲ勸告シ又ハ同項第二號乃至第八 號ノ事項ノ實施ヲ命ズベシ
（星島二郎君登壇）	主務大臣ハ前項ノ決定ニ依リ陸上交通 事業經營者ニ對シ前項第一號ノ事項ノ 實施ヲ勸告シ又ハ同項第二號乃至第八 號ノ事項ノ實施ヲ命ズベシ
（星島二郎君登壇）	第十二條 陸上交通事業經營者本法若ハ 本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キ テ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大 臣ハ、左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
（星島二郎君登壇）	一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコ ト
（星島二郎君登壇）	二 他人ヲシテ事業經營者ノ計算ニ於 テ事業ノ全部又ハ一部ノ停止ヲ爲サ 三 事業ノ全部又ハ一部ノ停止ヲ爲サ シムルコト
（星島二郎君登壇）	四 免許又ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ取 消スコト
（星島二郎君登壇）	（星島二郎君登壇）

格ニ付テハ寧ロ一定ノ標準ヲ設ケナイコト
ガ實情ニ適スルモノトノ答ガアリマシタ、
本法デハ調整ニ關スル計畫ノ決定、協議ガ
調ハザル場合ノ裁定、其他本法ノ實際ノ運
用上、交通事業調整委員會ガ重要ナル使命
ヲ有スルモノデアリマスルガ、其組織構成
ハドウスル考デアルカトノ論議ガアリマン
タ、之ニ對シ政府ハ、貴衆兩院議員、學識
經驗者、關係各廳高等官、地方ノ事情ニ通
曉セル者等ヲ委員トシテ、權威アル意見ヲ徵
シ、遺憾ナキヲ期スル積リデアルトノ答辯ガ
アリマシタ、又本法ハ事業ノ經營主體ニ付テ
明示シテ居ナイガ、如何ナル形態ヲ以テ最善
ナリト信ズルヤトノ論議ガアリ、之ニ對シテ
政府ハ、各地域ニ於ケル實情ニ即シテ、最モ適
當ナル形態ニ依ル調整ヲ爲ス考デアルト答
ヘラレマシタ、更ニ制裁ハ少シク強過ギル
ノデハナイカトノ質問ニ對シマシテ、本法
ノ制裁ハ大體地方鐵道法、軌道法等ノ例ニ
倣ツタモノデアッテ、妥當ノモノト考ヘル旨
ノ答辯ガアリマシタ、本法ノ運用上ハ固ヨ
リ、將來ノ交通事業調整ノ爲ニハ、交通省
ノ如キモノノ設置シテハ如何トノ論議ニ對
シ、行政機構ノ改革ハ行政ノ運用ヲ綜合的
ニ觀察シ、又各種行政機關ノ今日迄ノ沿革
等ヲ考慮シテ、慎重ニ決スベキ問題デアル
トノ答ガアリマシタ、其他交通事業ト密
接ナル關係ヲ有スル兼業ヲ如何ニ處置スル
カ、合併等ノ場合ニ從業員ノ待遇低下ヤ、
或ハ失業者ヲ出スヤウナコトナキヤノ質問
ニ對シマシテ、委員各位ト鐵道、内務兩當
局トノ間ニ、熱心ナル質問應答ノ交換ガ
アツタノデアリマス
ソコデ討論ニ入りマシテ、次ノヤウナ修
正案ガ出マシタ、第二條第一項中「事業」
種類及範圍ノ次ニ「之ト密接ナル關係ヲ有
スル兼業ノ處置」ヲ加フ、第十二條ノ即チ
處罰規定デスガ「主務大臣ハ」ノ次ニ「交通
事業調整委員會ノ意見ヲ徵シ」ヲ加フ、是

ガ修正デアリマス、此修正ハ民政黨ヲ代表
シテ清水德太郎君ヨリ動議ガ提出セラレ、
之ニ對シテ政友會ヲ代表シマシテ佐藤洋之
代君ガ贊成ノ意ヲ表セラレ、社會大衆黨ヲ
道家齊一郎君ガ贊意ヲ表セラマシタ、而シ
テ修正ヲ含メテ本法案ヲ全員一致議決致シ
タノデアリマス、修正ニ對シマシテ、中島
鐵道大臣ヨリ十分考慮スルトノ御答辯ガア
リマシタ
尙ホ民政黨、政友會、社會大衆黨、第二
控室ノ各派カラ種々ノ希望條項ガ出マシタ
ガ、中ニハ重複シテ居リマス點モアリマス
ノデ、私ハ之ヲ整理シマシテ、其要綱ヲ申
シマスルト
一、幹線ナラザル國有鐵道、省營「バス」
ヲ積極的ニ調整ニ參加セシムベシ
二、主務大臣ガ裁定ヲ爲ス場合ニ於テハ
裁定金額ノ算出ニ付命令其ノ他ノ方法
ニ依リ一定ノ標準ヲ定ムベシ
三、市内ニ於ケル水路交通事業ヲモ陸上
交通事業ト併セ調整スベシ
四、調整ニ當リテハ
(イ) 公營ノ方針ヲ貫キ地方自治體ヲ經
營ノ主體トスルコト
(ロ) 運賃ノ引上ゲラ來サザルヤウ嚴重
ニ監督スルコト
(ハ) 從業員ノ待遇ヲ低下セシメザルハ
勿論絶対ニ失業者ヲ出サザルコト
(ニ) 交通事業調整委員會ノ構成ハ公平
ニ對シマシテ、委員各位ト鐵道、内務兩當
局トノ間ニ、熱心ナル質問應答ノ交換ガ
アツタノデアリマス
○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

第四 民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第六 外國裁判所ノ嘱託ニ因ル共助法
中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

報告書

一、民事訴訟法中改正法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

一、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正
法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

一、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正
法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

一、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正
法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

一、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正
法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

一、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正
法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

一、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正
法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

一、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正
法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

一、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正
法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

一、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正
法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

一、外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正
法律案（政府提出、貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スペキモノト議決致
候此段及報告候也。

昭和十三年三月十二日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 松永 東

報告書

權ハ、昨年十二月一日ヨリ撤廢セラル、コ
トトナリマシタ爲メ、兩國間ノ司法事務共
助ハ、明治三十八年法律第六十三號、外國
裁判所ノ囑託ニ因ル共助法ノ規定ニ依ルノ
外ナインデアリマスガ、斯クテハ我國ト極
メテ密接特殊關係ニアリマスル満洲國トノ
司法事務共助ハ、到底不十分タルコトヲ免
レナイ爲メ、本法ヲ制定シテ此缺陷ヲ補正
セントスル法律案デアリマシテ、貴族院ニ於
キマシテハ本案第六條ヲ修正シタノデアリ
マスガ、政府ハ此修正ハ其趣旨原案ト同一
デアルト云フ理由デ、此修正ニ同意セラレ
タノデアリマス、委員會ニ於キマシテノ質
問ハ、先ヅ全般的ニ満洲國司法制度竝ニ裁
判制度ノ現狀、及ビ我國在野法曹ヨリ満洲
國司法官ヲ採用スルノ可能性如何、即チ近
來我國ニ於ケル少壯有爲ノ在野法曹ハ、既
ニ飽和狀態ニアリマスルカラシテ、單ニ在
朝法曹中ヨリ採用スルノミニ止メズ、満洲
國ヲシテ等シク在野法曹ヨリ採用スルノ途
ヲ打開シ得ルヤ等ノ質問ニ對シマシテ、政
府ヨリ同國ノ司法制度竝ニ裁判制度ハ、事
實上日本ニ於ケルト同様ノ發達過程ニアッ
テ、在滿我國民ノ権義ニ關シマシテハ、
毫モ憂慮スペキ事實ナキコト、更ニ在野法
曹採用ノ點ニ付キマシテモ、満洲國ノ制度
整備ニ伴ヒ、實現ノ意圖アルコトヲ仄聞シ
テ居ルト云フ旨ノ御答辯ガアリマシテ、逐
外ノ方々ハ、何レモ各派ノ在野法曹ノ權
威者ニアリマシテ、而モ其法案ノ涉外關係
事項、又ハ國民ノ権義ニ甚大ナル影響ヲ與
ヘル問題デアリマス爲メ、熱心ニ慎重ニ審
議セラレタノデアリマス、サウシテ又各、其
抱懐スル所ヲ述べテ、質疑セラレタノデア
ノデアリマス

右法案ハ何レモ貴族院ヲ通過シ、本院ニ
送付セラレマシテ、去ル本月三日當院本會
議ニ於テ委員ニ付託セラレタル法律案デアリ
マス、各委員ニ於カレマシテハ、私ヲ除ク
外ノ方々ハ、何レモ各派ノ在野法曹ノ權
威者ニアリマシテ、而モ其法案ノ涉外關係
事項、又ハ國民ノ権義ニ甚大ナル影響ヲ與
ヘル問題デアリマス爲メ、熱心ニ慎重ニ審
議セラレタノデアリマス、サウシテ又各、其
抱懐スル所ヲ述べテ、質疑セラレタノデア
ノデアリマス

先づ審議ノ順序ニ從ヒマシテ、日滿司法事務共助法案外三件 第一讀會ノ續

ト云フ點ノ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ
政府答辯ノ要旨ハ、元來苟モ債務ノ存
ルコトガ明確ナル場合ニハ、時效ニ依ッテ之
ヲ免ル、コトハ喪ムベキコトデハナイ、併
シ時ノ經過ニ伴シテ證明ノ材料ガ散逸シ、債
權ノ存在カ不明ニナリ易イ等ノ理由カラ、
セントスル法律案ニ付テ意思表示ノ方法ヲ設クル
ヲ改正セントスルモノデアリマス、即チ其
一ハ、民法法人ニ關スル登記期間ノ改正、其
二ハ、相手方ノ不明ナル場合、又ハ其所在不
明ナル場合ニ付テ意思表示ノ方法ヲ設クル
コト、其三ハ、所謂短期時效ノ定期權利モ、
判決、裁判上ノ和解、其他はト同様ノ效力
ヲ有スルモノニ依ッテ確定致シマシタ場合
ハ、爾後通常ノ債權ト同様ニ、消滅時效期
間ヲ十年ニスル改正案デアリマス、質疑應
答ノ重ネラレマシタノハ、右ノ第三ノ時效
ノ問題デアリマス、即チ質問ノ要點ハ、第
一ニ民法第百七十四條其他ニ於テ短期時效
ヲ定メマシタノハ、各其債權ノ性質ヨリ出デ
モ、其本質ヲ變更スペキ謂レガナイ、例ヘ
バ、月給又ハ日傭人ノ給料、旅店、料理屋等
ノ債權ガ判決確定致シタガ故ニ、其本質ヲ
變更シテ、一般債權ト同一視スルト云フノ
ノ嫌ナキヤ、即チ前陳ノ如キ債權本來ノ性
質ヨリシテ、短期時效ノ制度ガ設ケラレ
ハ廣汎ナル權限ヲ與ヘラレテ居ルノデアリ
マス、此廣汎ナル權限ヲ持ッテ居ル満洲國檢
察第六條ニ關スル事項デアリマス、即チ滿
洲國ニハ豫審制度ガアリマセヌ、隨テ檢事
官ニ付テモ、色々ノ質疑應答ガ重ネ
ラレタノデアリマスガ、其主ナルモノハ本
案カラ、直ニ共助ヲ求メラレタ場合、日
居ルノデアッテ、例ヘバ債權者ハ旅店、料理
屋、待合等ノ仕拂ハ、僅々一年ノ時效デ債
務ヲ免ル、ニ拘ラズ、判決ガ確定致シマシ
テ、大要デアリマスガ、討論ニ入リマシテ、右
四案ヲ一括シテ討論スルコトニ致シマシタ
何等ノ質疑ヘナカツタノデアリマス
以上ハ四案ニ對スル委員會ノ質疑應答ノ
大要デアリマスガ、討論ニ入リマシテ、右
四案ヲ一括シテ討論スルコトニ致シマシタ
先づ民政黨ヲ代表シテ内藤正剛君ヨリ、日
滿司法事務共助法案ニ對シテ、左ノ附帶決
議ヲ附セラレマシタノデアリマス、今之ヲ
朗讀致シマス

テ政府答辯ノ要旨ハ、元來苟モ債務ノ存
ルコトガ明確ナル場合ニハ、時效ニ依ッテ之
ヲ免ル、コトハ喪ムベキコトデハナイ、併
シ時ノ經過ニ伴シテ證明ノ材料ガ散逸シ、債
權ノ存在カ不明ニナリ易イ等ノ理由カラ、
セントスル法律案ニ付テ意思表示ノ方法ヲ設クル
ヲ改正セントスルモノデアリマス、即チ其
一ハ、民法法人ニ關スル登記期間ノ改正、其
二ハ、相手方ノ不明ナル場合、又ハ其所在不
明ナル場合ニ付テ意思表示ノ方法ヲ設クル
コト、其三ハ、所謂短期時效ノ定期權利モ、
判決、裁判上ノ和解、其他はト同様ノ效力
ヲ有スルモノニ依ッテ確定致シマシタ場合
ハ、爾後通常ノ債權ト同様ニ、消滅時效期
間ヲ十年ニスル改正案デアリマス、質疑應
答ノ重ネラレマシタノハ、右ノ第三ノ時效
ノ問題デアリマス、即チ其本質ヲ變更スペキ
謂レガナイ、例ヘバ、月給又ハ日傭人ノ給料、
旅店、料理屋等ノ債權ガ判決確定致シタガ
故ニ、其本質ヲ變更シテ、一般債權ト同一
視スルト云フノノ嫌ナキヤ、即チ前陳ノ如
キ債權本來ノ性質ヨリシテ、短期時效ノ制
度ガ設ケラレタノデアリマスガ、其主ナル
モノハ本案カラ、直ニ共助ヲ求メラレタ場合、
日居ルノデアッテ、例ヘバ債權者ハ旅店、理
料理屋、待合等ノ仕拂ハ、僅々一年ノ時效
デ債務ヲ免ル、ニ拘ラズ、判決ガ確定致シマ
シテ、大要デアリマスガ、討論ニ入リマシテ、右
四案ヲ一括シテ討論スルコトニ致シマシタ
何等ノ質疑ヘナカツタノデアリマス
以上ハ四案ニ對スル委員會ノ質疑應答ノ
大要デアリマスガ、討論ニ入リマシテ、右
四案ヲ一括シテ討論スルコトニ致シマシタ
先づ民政黨ヲ代表シテ内藤正剛君ヨリ、日
滿司法事務共助法案ニ對シテ、左ノ附帶決
議ヲ附セラレマシタノデアリマス、今之ヲ
朗讀致シマス

一、勾引狀執行ノ共助ヲ受ケタルトキハ
刑事訴訟法人權尊重ノ精神ニ則リ本法
第三條ヲ活用シ其ノ實ヲ擧クヘシ
ナ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シマシ

二 前項ノ趣旨ヲ體シ速ニ明治四十四年法律第五十二號司法事務共助法並ニ本法ノ改正ヲ爲スヘシ
以上ノ附帶決議ヲ附シテ本案貴族院修正案ニ賛成ノ意見ヲ表シ、更ニ民法中改正法律案ニ對シテハ、本法改正アルモ決シテ資本家擁護ノ立場ニアラザルコトハ、今迄裁判判明デアリマシテ、現ニ金錢債務臨時調停法其他商事調停法等、種々緩和スル規定モアル今日、既ニ確定判決迄アル場合、從來權利主張ノ觀念が劣る傾キアル時弊ニ鑑ミ、義務履行ヲ強メル趣旨ヨリ、多少長キヤウノ感アルモ、將來ハ考慮スルコトトシ、左ノ希望條項ヲ附セラレタノデアリマス、今之ヲ朗讀致シマス

將來根本的ニ民法改正ノ際ハ短期時效規定セル確定權利ノ時效期間ニ關シ相_ト云フ希望條項ヲ附シテ、民事訴訟法中改正法案及ビ外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案ト同様貴族院ノ修正案及ビ原案ニ賛成セラレマシタ
仍テ只今申上ゲマシタ審議情勢ノ下ニ各案ノ採決ニ入リマシタ、即チ其結果ハ、先づ一、日滿司法事務共助法案ニ對シテハ、貴族院修正通リ全會一致可決、二、民法中改正法律案ニ對シテハ、中村高一君ヲ除ク外ハ全部原案ニ賛成セラレマシテ多數可決、
三、民事訴訟法中改正法律案及ビ外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案ニ對シテ採決致シマシテ、兩案共全會一致原案ヲ可決致シタノデアリマス、以上ノ通り決定シタノデアリマス、詳細ハ速記録ニ就テ御一覽ヲ御願致シマス、何卒委員會ノ熱心ナル審議ノ結果ヲ尊重セラレマシテ、委員長ノ報告通り決定セラレントコトヲ切望スル次第デアリマス(拍手)
○議長(小山松壽君) 四案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

第一 有價證券引受業法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
有價證券引受業法案
第一條 本法ニ於テ有價證券引受業トハ有價證券ノ收受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス營業ヲ謂フ前項ノ有價證券ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二條 有價證券引受業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ
第三條 有價證券引受業ハ資本金二百萬圓以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ
第四條 第二條ノ免許ヲ受ケタル者(以下證券引受會社ト稱ス)ハ有價證券引受業ニ附隨スル業務又ハ有價證券ノ賣買若ハ其ノ媒介ノ外他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラズ
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ四案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

日滿司法事務共助法案 第二讀會(確定議)
民法中改正法律案 第一讀會(確定議)
民事訴訟法中改正法律案 第一讀會(確定議)
第二讀會(確定議)
外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案 第二讀會(確定議)
○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、四案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第一、有價證券引受業法案ノ第一讀會ヲ開キマス——太田大藏政務次官

第六條 證券引受會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
一 商號ヲ變更セントスルトキ
二 資本金ヲ變更セントスルトキ
三 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ
四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第五條 證券引受會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第七條 證券引受會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ
第八條 證券引受會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ
第九條 證券引受會社ノ營業年度ハ六月ヨリ十一月迄及十二月ヨリ五月迄トス
第十條 證券引受會社ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ
第十一條 證券引受會社ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シ新聞紙ニ依リ之ヲ公告スベシ
第十二條 主務大臣ハ何時ニテモ證券引受會社ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ帳簿書類ヲ提出セシムルコトヲ得
第十三條 主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命ジテ證券引受會社ノ業務及財產ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得
第十四條 主務大臣ハ證券引受會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ必要ト認ムル命令ヲ爲スコトヲ得

ニ拘ラズ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタル場合ノ事務承繼者ト爲ルコトヲ得
第五條 證券引受會社ハ他ノ法律ノ制限ニ拘ラズ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタル場合ノ事務承繼者ト爲ルコトヲ得
第五條 證券引受會社ハ他ノ法律ノ制限ニ拘ラズ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタル場合ノ事務承繼者ト爲ルコトヲ得
第五條 證券引受會社ハ他ノ法律ノ制限ニ拘ラズ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタル場合ノ事務承繼者ト爲ルコトヲ得
第五條 證券引受會社ハ他ノ法律ノ制限ニ拘ラズ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタル場合ノ事務承繼者ト爲ルコトヲ得

第十五條 證券引受會社ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十六條 主務大臣ハ業務ノ停止ヲ命ぜラレタル證券引受會社ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十七條 主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ有價證券引受業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役又ハ支配人ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十條ノ規定ニ違反シ業務報告書ヲ提出セズ又ハ虛偽ノ業務報告書ヲ提出シタルトキ

第二十條 第十一條ノ規定ニ違反シ公告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ公告ヲ爲シタルトキ

第三十條 第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿書類ヲ提出セザルトキ

第四十條 第十三條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒み、妨げ又ハ忌避シタルトキ

第五十條 第十九條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十條 第四條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

第七十條 第十條ノ規定ニ依ル業務報告書ノ提出又ハ第十一條ノ規定ニ依ル公告ヲ怠リタルトキ

第八十條 本法ニ基キテ爲ス命令ニ違反シタルトキ

第九十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定ムル過料ニ之ヲ

準用ス

第二十條 銀行、信託會社又ハ特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ有價證券引受業ヲ營ム者ニハ本法ヲ適用セズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ有價證券引受業ヲ營ム者又ハ其ノ營業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限り第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ營業ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲タル者前項ノ期間内ニ第二條ノ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル免許又ハ不免許ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

本法施行ノ際迄一年以上引續キ有價證券引受業ヲ營ム者第二項ノ期間内ニ免許ヲ申請スルトキハ本法施行後二年ヲ限り第三條及第四條ノ規定ヲ適用セズ

○政府委員太田正孝君登壇

第一條 本法ハ支那事變又ハ支那事變ニ際シテノ満洲ニ於ケル軍事行動ニ關シ戰鬪其ノ他ノ公務ニ從事シ爲ニ死歿シタル者ノ遺族又ハ之ガ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者若ハ其ノ家族ニシテ農山漁村ニ居住スルモノ（以下戰死傷者遺家族ト稱ス）ノ經濟更生ヲ圖ル爲其ノ負債ヲ處理スルコトヲ目的トス戰死傷者遺家族ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 本法ニ於テ負債トハ戰死傷者遺家族ノ負擔スル私法上ノ金錢債務ヲ謂フ

第三條 戰死傷者遺家族本法ニ依リ負債ヲ處理セントスルトキハ本人又ハ市町村長其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ道府縣臨時負債處理委員會（以下委員會ト稱ス）ニ對シ命令ノ定ル所ニ依リ其ノ旨ヲ申出ヅルコトヲ得

○議長（小山松壽君） 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮詢致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、昭和十二年法律第九十二號中改正法律案委員ニ併セ付託セラレントコトヲ望ミマス

○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第一、臨時農村負債處理法案ノ第一讀會ヲ開キマス——助川農林參與官

第二 暫時農村負債處理法案（政府提出） 第一讀會

○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第一、臨時農村負債處理法案ノ第一讀會ヲ開キマス——助川農林參與官

○政府委員太田正孝君登壇

第一條 本法ハ支那事變又ハ支那事變ニ際シテノ満洲ニ於ケル軍事行動ニ關シ戰鬪其ノ他ノ公務ニ從事シ爲ニ死歿シタル者ノ遺族又ハ之ガ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者若ハ其ノ家族ニシテ農山漁村ニ居住スルモノ（以下戰死傷者遺家族ト稱ス）ノ經濟更生ヲ圖ル爲其ノ負債ヲ處理スルコトヲ目的トス戰死傷者遺家族ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 本法ニ於テ負債トハ戰死傷者遺家族ノ負擔スル私法上ノ金錢債務ヲ謂フ

第三條 戰死傷者遺家族本法ニ依リ負債ヲ處理セントスルトキハ本人又ハ市町村長其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ道府縣臨時負債處理委員會（以下委員會ト稱ス）ニ對シ命令ノ定ル所ニ依リ其ノ旨ヲ申出ヅルコトヲ得

第四條 戰死傷者遺家族前條第二項ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了前同條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同條第二項ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了ニ至ル迄負債ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ斡旋ヲ休止スベシ

第五條 委員會必要アリト認ムルトキハ戰死傷者遺家族前項ノ承認ヲ受ケズシテ其ノ負債ノ全部又ハ一部ニ付辨済、相殺又ハ更改ヲ爲シタルトキハ委員會ハ其ノ者ノ負債處理ノ申出ニ付取消アリタルモノト看做スコトヲ得

第六條 第三條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依ル調停委員會ハ同條第二項ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了ニ至ル迄其ノ調停手續ヲ中止スルコトヲ得

第七條 負債整理組合又ハ市町村負債整理委員會ハ第三條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依ル調停委員會ハ同條第二項ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了ニ至ル迄其ノ調停手續ヲ中止スルコトヲ得

第八條 委員會必要アリト認ムルトキハ期スル爲メ、茲ニ本法律案ヲ提出致シタノデ、今回是等業者ノ業務ニ付キ監督ヲ加フルト共ニ、一面其業務ノ堅實ナル發展デ之ニ對シ政府ニ於テ監督ヲ爲シ得ル途ガナカツク爲ニ、尠カラズ不便ノ點ガアリマシタノデ、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス（拍手）

第五條 利率、償還期限、償還方法其ノ他ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ニ付斡旋ヲ爲シ其ノ者ノ負債處理計畫ヲ樹立スベシ

第六條 委員會ノ組織、權限其ノ他必要ナル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 第四條 戰死傷者遺家族前條第二項ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了前同條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ノ全部又ハ一部ニ付辨済、相殺又ハ更改ヲ爲シ債務者ハ之ガ爲ニ遲延ニ因ル損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八條 第五條 委員會必要アリト認ムルトキハ戰死傷者遺家族前項ノ承認ヲ受ケズシテ其ノ負債ノ全部又ハ一部ニ付辨済、相殺又ハ更改ヲ爲シタルトキハ委員會ハ其ノ者ノ負債處理ノ申出ニ付取消アリタルモノト看做スコトヲ得

第九條 第六條 第三條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依ル調停委員會ハ同條第二項ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了ニ至ル迄其ノ調停手續ヲ中止スルコトヲ得

第十條 第七條 負債整理組合又ハ市町村負債整理委員會ハ第三條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依ル調停委員會ハ同條第二項ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了ニ至ル迄其ノ調停手續ヲ中止スルコトヲ得

第十一條 第八條 委員會必要アリト認ムルトキハ期スル爲メ、茲ニ本法律案ヲ提出致シタノデ、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス（拍手）

第十二條 第九條 委員會前項ノ申出ヲ受理シタルトキハ

第十三條 第十條 命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ戰死傷者遺家族及債權者間ニ於ケル負債ノ金額、

委員會ハ幹旋ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得
第九條 當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ委員會ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得
第十條 市町村負債整理委員會其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノハ委員會ノ請求アリタルトキハ本法ニ依ル負債ノ處理ニ關シ意見ヲ具申シ又ハ調査ヲ爲スベシ

第十一條 市町村又ハ產業組合中央金庫ハ本法ニ依ル負債處理ヲ助成スル爲必要アリト認ムルトキハ戰死傷者遺家族又ハ負債整理組合

第十二條 市町村、産業組合中央金庫又ハ融資銀行ト稱スハ戰死傷者遺家族ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得
第十三條 産業組合中央金庫特別融通及損失補償法第三條及第四條ノ規定ハ產業組合中央金庫ガ第十一條ノ規定ニ依

ル特別融通ヲ爲ス場合ニ、農村負債整理資金特別融通及損失補償法第三條並ニ不動產融資及損失補償法第四條及第五條ノ規定ハ融資銀行ガ第十一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 北海道府縣ハ第十一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ市町村ガ損失ヲ受ケタルトキ之ニ對シ其ノ特別融通總額ノ十分ノ六以内ノ金額（市町村ニ對スル損失補償金）ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得
政府ハ前項ノ損失補償ノ契約ニ基キ北海道府縣ガ損失補償ヲ爲シタルトキ之ニ對シ其ノ市町村ニ對スル損失補償金ノ三分ノ二相當スル金額ヲ補給スルノ契約ヲ爲スコトヲ得
第一項ノ規定ニ依リ北海道府縣ガ市町村ニ對シテ爲ス損失補償ノ契約ニ於テハ北海道府縣ノ市町村ニ對スル損失補償金中其ノ六分ノ二相當スル金額ヲ當該市町村ニ於テハ負擔スペキ旨ヲ定ムベシ但シ特別ノ事由アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村ノ負擔スペキ金額ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲シ又ハ市町村ヲシテ負擔ヲ爲サシメザルコトヲ得

第十五條 政府ハ第十一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ産業組合中央金庫又ハ融資銀行ガ損失ヲ受ケタルトキハ産業組合中央金庫ニ對シテヘ其ノ特別融通ヲ爲スコトヲ得
第十六條 第十四條第一項及前條ノ損失補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得
第十七條 協議シテ之ヲ定ム決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ

規定期ニ依ル政府ノ補給金及補償金ト農村負債整理資金特別融通及損失補償法第五條第二項及第六條ノ規定ニ依ル政府ノ補給金及補償金トノ合計額ハ同法定ニ依ル補給金及補償金ノ總額ノ限度ヲ超エザルモノトス

第十八條 第十一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲シタルニ因リ市町村、産業組合中央金庫又ハ融資銀行ノ受ケタル損失及其ノ額ハ農村負債整理資金特別融通及損失補償法第九條ノ負債整理資金特別融通損失審査會之ヲ決定ス

第十九條 第十四條第二項及第十五條ノ契約ニ基キ政府ガ北海道府縣、産業組合中央金庫及融資銀行ニ對シ支拂フベキ補給金又ハ補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第二十條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第二十一條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第二十二條 農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ負債整理組合ト看做ス

第二十三條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキモノトス

目的トスル農村負債管理制度が確立セラレタノデアリマスガ、更ニ昨年法律ノ一部改正、及び農村負債整理資金特別融通、及ビ損失補償法ノ成立ニ依リ、一層制度ノ擴充ヲ見ルニ至リマシタコトハ、御承知ノ通りデアリマス、然ルニ今次支那事變ノ勃發致シマスルヤ、農山漁村ヨリ多數ノ應召者ヲ出シタノデアリマスガ、其中ニハ名譽ノ戰死ヲ遂げ、或ハ傷痍ヲ蒙リ、又ハ不幸疾病ニ罹ルニ至ツカ者モ勘クナインデアリマステ、是等戰死傷者遺家族ニ付テ、其經濟更生ヲ圖ル爲ニ、負債整理ニ關シ此際特別ノ制度ヲ設ケマスコトハ、銃後施設ノ一端ト致シマシテモ、亦極メテ緊要ノコトト存ズルノデアリマス、仍テ茲ニ臨時農村負債處理制度ヲ樹ツルコトト致シタノデアリマスニシテ、其處理ノ簡易化ヲ圖ツタコトデアリマス、第二八、道府縣ニ臨時負債處理委員會ヲ設置シ、從來ノ制度ニ依ル市町村負債整理委員會ニ代シテ、債務ノ條件緩和ノ斡旋等ヲ爲サシムルコトトシ、更ニ此道府縣臨時負債處理委員會ニ、若干ノ新シイ機能ヲ認ムルコトト致シマシタコトデアリマス、第三八、負債處理資金ノ特別融通ニ對スル損失補償ノ割合ヲ、從來ノ制度ニ比シ相當引上グルコトト致シマシタコトデアリマス、以上ハ本案提出理由ノ概要テアリマスガ、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラコトヲ希望致ス（次第アリマス）

○政府委員（助川啓四郎君）只今議題トナリマシタ臨時農村負債處理法案ニ付テ、其提案理由ヲ御説明申上ガタイト存ジマス、昭和八年農村負債整理組合法ノ成立ヲ見マス、之ヲ許シマス——最上政三君

○最上政三君 今回政府カラ支那事變ニ於ケル戰死傷者ノ遺家族ニ對シ、負債整理ヲス、之ヲ許シマス——最上政三君

○議長（小山松壽君）質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——最上政三君

（最上政三君登壇）

○議長（小山松壽君）質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——最上政三君

（最上政三君登壇）

○議長（小山松壽君）質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——最上政三君

（最上政三君登壇）

○議長（小山松壽君）質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——最上政三君

（最上政三君登壇）

（最上政三君登壇）

（最上政三君登壇）

モ機宜ヲ得タ法案ナリト信ズル者ニアリマス、從來戦死傷者ノ待遇ハ、現行法ニ於テハ甚ダ薄カタノデアリマス、然ルニ今回政府ニ於テハ是ガ優遇ヲ爲スベク、先頃恩給法中改正法律案ヲ提案致シマシタ、幸ヒ衆議院ハ全會一致通過ラシタノデアリマスカラ、廳テ貴族院ニ於テモ其通過ハ當然アルト思フノデアリマス、此結果從來ニ比シ稍其待遇ガ改善サレタモノト思フノデアリマスガ、尙ホ戰死者ノ遺家族ニ對スル扶助料ガ、兵ニ於テ月額僅ニ二十數圓デアリマス、又戰傷者ノ年金ニ付テ見マスルト、最モ多キ所ノ五項、六項ト云フ年金受給者ノ月額ハ、是亦兵ニ於テ二三十圓ニシカナラナインノデアリマス、斯ル情勢ニアリマスカラ、若シモ出征セ行クカ、若シモ其家ニ負債等ガアル場合ハ、其家長ガ名譽ノ戰死ラシ、或ハ負傷シタ場合ニ於テハ、其一家ノ生計ハ今後ドウナッテアリマス、其要點ダケラ二三政府ニ質シテ見タイカラ見マシテ私ハ時間ノ關係モアリマスカラ、ト思フノデアリマス

第一トシテ本案第一條ノ戰死傷者ニ對スル傷ノ程度ニアリマス、現在ノ恩給法ノ別表二號乃至四號ノ全部ニ之ヲ適用スルノデアルカドウカ、此點ニ付テ御答ヲ願ヒタイト

第二トシテハ、本案實施ニ依ツテ是等戰死傷者ノ遺家族ガ、單獨ニ市町村ナリ、或ハ信用組合ナリ、又ハ融資銀行カラ借リルコトガ出來ルノデアルカ、或ハ既設ノ負債整理組合ニ加入スルノデアルカ、又ハ其町村

ニ於ケル他ノ遺家族等ト新ニ組合ヲ作ツテ借リルノデアルカドウカ、本案ハ今朝受取タノデ、其内容ニ付テ詳シク検討スルコトハ出来マセヌガ、ドウモ此點ニ於テ不明ノ點ガアリマスカラ、第二點トシテ之ニ對シテ明ナル御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、第三トシテハ、現在金融業者、特ニ高利貸ノ如キ人々ガ、若モ本人ニ多少金ガ出來テ、條件緩和ノ相談ヲ持出シタシテ之ニ對シテハ、到底應ズルモノトシマセヌ、是ハ高利貸ノミナラズ、一般吾々日常ノ支拂ニ付テモ、斯ウ云フ實例ガアル、金ガアレバ其人ハ何時カハ借金ヲ返シテ吳レルト云フ考ガアルカラ、高利貸アルトカ金融業者ハ、中々條件緩和ナドラスルモノトシテナインノデアリマス、然ルニ本案ニ依レバ、茲ニ道府縣ニ臨時負債整理委員會ト云フモ員會ガ金貸業者ニ向ツテ條件緩和ニ付テ交渉スルモノト考ハラレマス、勿論遺家族ニハ一時賜金モアリ、又ハ扶助料、年金等モアルカラ、金貸ハ多少ノ割引ハスルデアリマセウガ、吾々ガ從來ノ負債整理ニ考ヘルガ如キ條件緩和ハ、彼等ハ到底應ジナカラウト思フノデアリマス、元來金ヲ借リタコトノナイ所ノ官吏諸公ガ作ツノデアルカラ、サウ云フ點マデヘ御考ナサラナイカモシモ本案ヲ實施スル場合ニ於テハ、第五條ノ金錢債務臨時調停法ニ依ル調停委員會ニシテノ原因デアルノデアリマス、故ニ私ハ若シモ本案ヲ實施スル場合ニ於テハ、第五條ノ問題ニ付テ色々々折衝シテモ中々應ジ

ト云フコトニナレバ、眞ニ戰死傷者ノ遺族ニ對シ親切デアラウカドウカ、私ハ疑付テ政府ノ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、第四トシテハ、本法第十四條、第十五條ニ依ツテ、今回ノ此案ハ從來ノ負債整理トハ異リ、市町村ガ是等ノ遺家族ニ對シテ債務付テ政府ノ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、ハザルヲ得ナインノデアリマス、是等ノ點ニ於テモ五億圓ノ融資が出來ルニモ拘ラズ、ニ依ツテ、今回ノ此案ハ從來ノ負債整理トハ異リ、市町村ガ是等ノ遺家族ニ對シテ債務付テ政府ノ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、ハザルヲ得ナインノデアリマス、是等ノ點ニ於テモ五億圓ノ融資が出來ルニモ拘ラズ、僅カ三千万圓程度ノ融資ヲシテ、政府ハ恬トニ於テハ、到底應ズルモノトシマセヌ、是ハ高利貸ノミナラズ、一般吾々日常ノ支拂ニ付テモ、斯ウ云フ實例ガアル、金ガアレバ其人ハ何時カハ借金ヲ返シテ吳レルト云フ考ガアルカラ、高利貸アルトカ金融業者ハ、中々條件緩和ナドラスルモノトシテナインノデアリマス、然ルニ本案ニ依レバ、茲ニ道府縣ニ臨時負債整理委員會ト云フモ員會ガ金貸業者ニ向ツテ條件緩和ニ付テ交渉スルモノト考ハラレマス、勿論遺家族ニ又融資ノ特殊銀行等ニ對シテハ十分ノ四ノ補償ヲスルト云フ規定ガアルノデアリマス、是等ニ對シテ政府ハ此補償ヲ從來ニ比シテ非常ニ多額ニシタカラ、今度ノ負債整理ハ順調ニ行クモノナリト云フ御考デアリマセウガ、私カラ考ヘルト、此位ノ補償デハ決シテ地方ニ於ケル信用組合又ハ特殊銀

行デハ、金ヲ貸シテ吳レナイト思ハレマスガ、政府ハ如何ナル考デアリマセウカ、現ニ現在農村負債整理組合ノ成績ハドウデアルカト云フニ、昭和八年八月ニ實施以來アルカト云フニ、昭和八年八月ニ實施以来ニ至ルマデ數度改正サレマシタ、初メニハ其融資金額ノ如キハ二億圓デアツノヲ、昨年改メテ之ヲ五億圓トシタノデアリマス、又從來ハ市町村限リ融通セシメテ居タルノヲ、之ヲ改正シテ產業組合デアルトカ、特殊銀行マデガ之ヲ融通スルコトニ改正ラシタノデアリマス、又昨年ノ規則ノ改正ハ、特殊銀行ニ對シテハ二割、信用組合ニハ三割ト云フ、新ニ補償額ヲ定メタノデス、斯クテ昨年末カラ實施シテ居ルガ、其結果ハシテハ一割五分デアツノヲ一割ト改メ、又緩和ノ問題ニ付テ色々々折衝シテモ中々應ジナイ、サウ云フ場合ニハ、此調停委員會ニ掛ケルコトナルノデス、戰死傷者ノ遺家族中ニハ體面ヲ保ツテ居ル人々モ多インノデアリマス、然ルニ本案實施ニ依ツテ、委員會ニ於テモサウ云フコトガ茲ニ繰返サレタ場合ニシテ金ヲ借リル迄ニハ、相當日月ヲ要スルノデアリマス、早クテ半年、長イノハ一年、二年經ツテモ金ガ借リラレナイト云フノガ、今日ノ負債整理組合ノ現狀デアリマス、若シモサウ云フ考ナサラナイカモ、中々整理ガ出來ナイ、サウ云フ場合ニシテアリマスカラ、借りマチマデモ此負債ヲ整理シテモサウ云フ考ナサラ奈クノデアリマス、於テハ、遺家族ガ初メテ此整理委員會ニ於テ整理ヲシテ貰ヘウト考ヘテ手續ヲシタガ、中々整理ガ出來テ、サウ云フ場合ニシテアリマスカラ、借りマチマデモ此負債ヲ整理シテモサウ云フ考ナサラ奈クノデアリマス、於テハ、恐れ、自己ノ所有シテ居ル一時賜金デアルトカ、又恩給、年金等モ、今回ノ借リラレルノデアルカ、現ニ自分ノ持ツテ居ル一時賜金トカ恩給トカハ其儘ニシテ置

件トスルノニアリマス、現在ノ金利ニ於キマシテ、農村ノ經濟狀態ヨリ致シマスレバ、果シテ能ク此負債整理ノ目的ヲ遂行スルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、此金利ノ程度ニ於キマシテハ頗ル疑問ヲ懷ク者ニアリマス、又政府ノ低利資金ハ、或ル機關ヲ經由スルニ付キマシテ、所謂利鞘ヲ取ラレテ居ノデアリマシテ、其低利資金ノ目的タル其利率ニ於キマシテ、直接之ヲ借用スル者ガ、政府ノ貸出ヨリモ高イ利子ヲ拂ハナケレバナラナイト云フコトハ、獨リ負債整理資金ノ關係ノミナラズ、農村ニ關スル各種ノ低利資金ニ於キマシテ、其實例ノアルコトハ御承知ノ通リデアリマス、先づ負債整理ニ付キマシテハ、此利鞘ヲ無クスト云フコトノ方針ヲ、何トカ執ラナケレバナラヌト考ヘル者ニアリマス、今回ノ臨時立法ニ付キマシテノ趣旨ハ、重ネテ茲ニ申上ゲマセヌガ、此臨時立法ヲ實施致シマシテ、其目的ヲ遂行スルニ付キマシテハ、私ハ寧ロ進ンデ利子ハ何等カノ方法ニ依リマシテ、之ヲ補給致シマシテ、無利子ト致シテ、此法律ノ目的ヲ達成スルノ必要ガアリハシナイカ、是ニ於キマシテ二宮尊徳ノ遺サレタル所謂報徳ノ仕法ハ、負債整理ハ全然無利息ノ方針ヲ採タノデアリマス、五箇年間ノ年賦償還ニ於キマシテ、負債整理ヲ遂ゲタ場合ニハ、六箇年目ニ其一箇年分ヲ御禮金トシテ支出セシムルト云フコトガ、二宮尊徳翁ノ遺サレタル報徳仕法ニ據ル所ノ方針デアリマス、又十箇年目ニ求メルニ於キマシテハ、十一箇年目ニ十箇年ノ一箇年分ヲ御禮トシテ納メルト云フコトガ方針ニナツテ居ルノデアリマス、此法律實施ニ付キマシテハ、此尊徳翁ノ遺サレタル報徳ノ仕法ニ學ブベキ點ガ大イニアルト考ヘルノデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ政府ノ御所見ヲ御伺致シタイト存ジマス尙ほ自治體ニ關シマシテ、負債整理方策

ノ実施ト自治體振興トノ關係ヨリ致シマシテ、現在自治體ニ關スル各種ノ助成金ノ事務ヲ統制致シマシテ、經費ノ節減ヲ圖ルト云フコトヲ考慮セナケレバナラスト考ヘマス、折角農村負債整理ノ方針ヲ樹テマシテモ、是等ノ點ニ著眼セザルニ於キマシテハ、完全ナル此整理事目的ヲ達成スルコトハ、甚ダ難カシイ問題デアルト考ヘマス、農會ニ致シマシテモ、產業組合ニ致シマシテモ、亦此負債整理組合ニ致シマシテモ、其悉クガ農村ノ發達振興ニ其趣旨ガ在ルト云フ意味ニ於キマシテ、寧口將來此事務ヲ統制致シマシテ、其事務處理ノ經費ニ付キマシテハ、自治體自體ガ之ヲ負フベキデハナイカト云フコトヲ考ヘル者ニアリマス、斯ノ如ク農村ニ於キマシテノ各種ノ事務ヲ統制致シマシテ、經費ノ節減ヲ圖ルコトニ於キマシテ、又政府ノ低利資金等ニ對シマシテ、其協力ヲ致シマシテ、内務省ノ指導監督方針ニ一致イタスコトニ其内容ヲ改メマシテ、シテ、而シテ農林省ノ各種ノ施設ガ内務省ト協力ヲ致シマシテ、内務省ノ指導監督方針ニ付キマシテモ、内務省トシテ十分ナル打合セ、協議ヲ遂げテ提案シタヤウナ次第デアリマス、今後一層緊密ナル連絡ヲ保シテ参ルヤウニ致シタイト考ヘルノデアリマス、負債整理資金ノ利率ハ無利子ニシテハドウカト云フヤウニ御質問デアッタノデアリマスガ、利子ハ低率デアルコトハ望マシノデアリマスガ、今日ノ状況ニ於キマシテハ、此程度ガ已ム得ナイコトデアルト思フノデアリマス、第四ニ團體ノ整理統制ニ付テノ御意見ガアリマシタガ、十分調査研究ヲ遂ゲマシテ、速ニ成案ヲ得テ實現ヲ期シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス(拍手)ノ議長(小山松壽君) 宮本君、宜シウゴザイマスカ——河合義一君

(河合義一君登壇)

○河合義一君 只今上程サレマシタ法案ニ對シ、私ハ同僚議員ノ質疑ト重複ノ點ハ避ケマシテ、二二三ノ點ニ付テ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス

○政府委員(助川啓四郎君) 宮本君ニ御答存ジマス(拍手)

○政府委員(助川啓四郎君登壇) 致シマス、第一ノ御質問ハ、負債増加ノ原因ニ考ヘテ居ルノデアリマス

○政府委員(助川啓四郎君) 宮本君ニ御答存ジマス(拍手)

○政府委員(助川啓四郎君登壇) 大體私ノ質問ノ要旨ニアリマス

○議長(小山松壽君) 宮本君、宜シウゴザイマスカ——河合義一君

因ハ、農產物價ノ下落、負擔ノ過重、金利ノ高イト云フヤウナコトガ、負債増加ノ重要な原因ヲ成シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ負債整理ノ計畫ヲ立テマス場合ニハ、吾々モ左様ノ點ニ關シテ深ク關心ヲ持タナケレバナラナイノハ、申ス迄モナイノデアリマス、隨ヒマシテ今後農產物ノ價格政策ニ付キマシテハ、十分力ヲ用ヒテ參リタイト考ヘマス、御指摘ニナリマシタ輸出關係ノ農產物ノ價格ノ値下リ等ニ付キマシテハ、農產關係品ノ輸出増進ニ力ヲ用ヒテ參リタイト考ヘルノデアリマス、負債整理ノコトニ付テ、内務省トノ指導方針ニ翻轄或ハ矛盾ガナイカト云フ御質問デアッタノデアリマスガ、此負債整理ノコトニ付キマシテハ、常ニ内務省ト十分ナル協調連絡ヲ取ツテ居ルノデアリマシテ、議題ニナッテ居リマス法案ノ提案ニ付キマシテモ、内務省トシテ十分ナル打合セ、協議ヲ遂げテ提案シタヤウナ次第デアリマス、今後一層緊密ナル連絡ヲ保シテ参ルヤウニ致シタイト考ヘルノデアリマス、負債整理資金ノ利率ハ無利子ニシテハドウカト云フヤウニ御質問デアッタノデアリマスガ、利子ハ低率デアルコトハ望マシノデアリマスガ、今日ノ状況ニ於キマシテハ、此程度ガ已ム得ナイコトデアルト思フノデアリマス、第四ニ團體ノ整理統制ニ付テノ御意見ガアリマシタガ、十分調査研究ヲ遂ゲマシテ、速ニ成案ヲ得テ實現ヲ期シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス(拍手)ノ議長(小山松壽君) 宮本君、宜シウゴザイマスカ——河合義一君

○河合義一君 只今上程サレマシタ法案ニ對シ、私ハ同僚議員ノ質疑ト重複ノ點ハ避ケマシテ、二二三ノ點ニ付テ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス

○議長(小山松壽君) 宮本君、宜シウゴザイマスカ——河合義一君

○河合義一君 最後ニ御伺致シタイノハ次ノ點デアリマスガ、政府ガ本法ヲ立案サレタ趣意ハ、善惡蝶ナル高利貸カラ保護シ、犠牲ノ家族サレルト云フ其賜金、或ハ扶助料金ヲ、悪

竦ナ金利業者ノ掠奪トモ稱シタイ取立カラ防ガウト云フノデアルト、私ハ推察スルノデアリマスガ、若シサウ云フコトデアルナラバ、其爲ニ萬全ノ處置ヲ施行細則上ニ規定サレルデアラウト思ヒマスガ、併シ國家ノ犠牲トナシテ居ル者ハ、戰死者、傷病死者、家族ノミデハナイノデアリマス、現ニ戰場ニ在ル所ノ軍人ノ家族モ、亦多數ノ犠牲ヲ拂ツテ居ルノデアリマシテ、此出征者ノ家族ニ後顧ノ憂ナク、且ツ生活ヲ擁護スル爲ニハ、本法ノ目的トスル負擔整理ノ如キ姑息ナル手段——勿論是ハ適用宜シキヲ得マシタナラバ無キニ勝ルモノデアリマスガ、コンナ姑息ナル手段ヨリモ、更ニ百尺竿頭一歩ヲ進メマシテ、出征者全體ニ對スル債務ノモラトリアイムヲ斷行スベキデアルト思フノデアリマス(拍手)私ハ此點ニ對シテ政府ノ御所見ヲ伺ヒタイ思フノデアリマス、戰線ニ居リマシテ、如何ニ勇敢ニ戰闘スル所ノ勇士ト雖モ、暮夜密ニ思ヲ家郷ニ馳セルトキニハ、色々ナ苦惱ガアルノデアリマスカラ、吾々國民ト致シマシテハ、セメテ出征中ダケデモ借金ノ苦ヲ遁レシメルト云(拍手)

(政府委員助川啓四郎君登壇)
○政府委員助川啓四郎君ノ御質問ニ對シテ御答致シス、國庫カラ全額ヲ補給スルコトニシタラドウカト云フ御質問ガアツクノデアリマス、現行法ニ於キマシテハ、ヤハリ町村ノ損失負擔ヲ考ヘテ居ルノデアリマスガ、本案ニ於キマシテハ、政府ノ補給竝ニ補償ノ割合ガ、現行法ノ一倍ニ引上げラレテ居ルノデアリマシテ、ソレダケ町村ノ負擔へ輕減サレタト言ヒ得ルト思フノデアリマス、河合君ノ御意見ニ相當近

ト思フノデアリマス、本法ノ適用ヲ都市マニ擴張シテハドウカト云フ御質問デアックタニデアリマスガ、都市ニハ御承知ノ通リニシタルノデアリマスガ、都市ニ對シマシテガアルノデアリマシテ、都市ニ對シマシテハ、此制度ノ運用ニ依テ、其目的ヲ達成スルコトガ出來ルモノト考ヘルノデアリマス、出征兵ノ全部ニ對シテ、本法ノ適用ヲスルヤウニシテハドウカト云フ御質問デアッタノデアリマスガ、御尋ノ出征兵ニ付キマシテハ、現行法ノ運用ノ上ニ相當考ヘテ行キタリト思フノデアリマス、殊ニ負債整理組合ノ普及等ニ關スル豫算ノ増額ヲ要求シテアルノデアリマシテ、其豫算ノ成立ガ出来マスクルナラバ、一般出征兵ノ負債整理ノ上ニ、相当ニ貢獻スルコトガ出來ルト思フノデアリマス(拍手)私ハ此點ニ對シテ政

○議長(小山松壽君) 河合君、宜シウゴザイマスカ——是ニテ質疑ハ終了致シマシテ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス
○服部崎市君 本案ハ政府提出、農業保險法案委員ニ併セ付託サレントコトヲ望ミマス
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、櫻内幸雄君外二十一名提出
支那事變ニ際シ召集集中ノ者ノ選舉権及被選舉権等ニ關スル法律案(櫻内幸雄君外二十一名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)第一讀會ノ續(委員長報告)
支那事變ニ為召集セラレタル地方議會ノ議員又ハ其選舉ノ當選者ノ資格ニ關スル法律案(櫻内幸雄君外二十一名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)第一讀會ノ續(委員長報告)
支那事變ニ為召集セラレタル地方議會ノ議員又ハ其選舉ノ當選者ノ資格ニ關スル法律案(櫻内幸雄君外二十一名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)第一讀會ノ續(委員長報告)
支那事變ニ為召集セラレタル地方議會ノ議員又ハ其選舉ノ當選者ノ資格ニ關スル法律案(櫻内幸雄君外二十一名提出)

右ハ本院ニ於テ三案ヲ併合シテ一案トシ表題ヲ「支那事變ニ際シ召集集中ノ者ノ選舉権及被選舉権等ニ關スル法律案」ト爲シ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十三年三月十五日
委員長 立川 平
衆議院議長 小山松壽殿
〔別紙〕
第一條 衆議院議員又ハ北海道會法、府縣制、市制、町村制若ハ此等ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ヲ行フ場合ニ於テ支那事變ニ際シ召集集中ナルニ因リ選舉人名簿ニ登録セラレザリシ者ニシテ召集ヲ解除セラレタルモノアルトキハ市町村長其ノ他人名簿調製義務ハ臨時ニ其ノ者ノ選舉人名簿ヲ調製スベシ
前項ノ選舉人名簿ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二條 北海道會法、府縣制、市制、町村制又ハ此等ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ニシテ支那事變ニ際シ召集集中ナルニ因リ其ノ職ヲ失ヒタル者召集ヲ解除セラレタルトキハ其ノ職ニ復ス
前項ノ場合ニ於テ議員ノ數其ノ定數ヲ超ユルトキハ議員ノ任期間其ノ議員ノ數ヲ以テ議員ノ定數トス但シ議員中關員ヲ生ジタルトキハ之ニ應ジ其ノ議員ノ定數ハ本來ノ議員ノ定數ニ至ル迄減少スルモノトス
前項ノ規定ハ選舉區アル場合ニ於テハ各選舉區ノ配當議員數ニ付之ヲ適用ス
前三項ノ場合ニ於テ必要ナル規定ハ命ヲ以テ之ヲ定ム
右ハ本院ニ於テ三案ヲ併合シテ一案トシ表題ヲ「支那事變ニ際シ召集集中ノ者ノ選舉権及被選舉権等ニ關スル法律案」ト爲シ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十三年三月十五日
委員長 立川 平
衆議院議長 小山松壽殿
〔別紙〕
第一條 衆議院議員又ハ北海道會法、府

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前召集ヲ解除セラレタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

(立川平君登壇)

○立川平君 只今上程致サレマシタ支那事變ニ際シ召集中ノ者ノ選舉權及被選舉權等ニ關スル法律案外二件ニ付キマシテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス

此三案ハ内容全ク同一デアリマスルノデ、三案ヲ一括シテ審議致シタノデアリマス、簡單ニ其内容ヲ御紹介申上ゲマスト、衆議院議員又ハ府縣制、町村制等ニ依リマシテ設置セラレマシタ議會ノ議員ノ選舉ニ於キマシテ、現行法ニ依リマスト、有權者デアリナガラ召集ヲ受ケマシタガ爲ニ、選舉人名簿ニ登録セラレナカッタ者ハ、召集ヲ解除セラレマシテモ、投票ヲ行フコトガ出来ナイノデアリマス、是ハ洵ニ不合理且ツ不親切ナ立法デアリマシテ、國難ニ赴イタ勇士ヲ遇スルノ途デハナイノデアリマス、法案第一條ハ此不合理ヲ救濟セントシタモノデアリマス、又現行法デハ是等ノ法令ニ依リ設置スル議會ノ議員ハ、召集ヲ受ケマスト直チニ失格ヲ致シマシテ、任期中ニ召集ノ解除ヲ受ケマシテモ、議員ニ復職ヲスルコトガ出來ナイノデアリマス、是モ洵ニ不合理ナコトデアリマシテ、法ノ不備不完デアリマス、法案第二條ハ此缺陷ヲ是正セントシタノデアリマス

委員會ハ去ル十一日開會シ、委員長、理事ノ選舉ヲ行ヒ、昨十四日提案者ヲ代表シテ手代木隆吉君ヨリ提案ノ趣旨ノ説明ガアリマシテ、中村高一君カラ其補足ノ説明ガアリマシタ、質疑ニ入リマシテ、委員ト提案者トノ間ニ二三字句ニ付テ質疑應答ガアッタノデアリマスルガ、是ハ速記錄ニ譲リマシテ省略ヲ御許フ願ヒタイト思ヒマス、其

際委員長ヨリ政府ノ所見ヲ質シマシタ所、政

府ハ本法ノ趣旨ニ賛成デアッテ、本案ガ兩

院ヲ通過致シマシタ時ニ、政府ハ院議ヲ尊

重シテ善處スル旨ノ言明ガアッタノデアリ

マス(拍手)昨日質疑ヲ終了致シマシテ、本

日三案ヲ一括シテ討論ニ入りマシタ所、委

員太田理一君ヨリ修正ノ動議ガ提出サレタ

ノデアリマス、是ハ只今御手許ニ配付サレ

タ印刷物ニ依シテ御覽ヲ願ヒタイノデアリ

マスルガ、要スルニ櫻内幸雄君外二十二名

御提出ノ原案ト大體同様デアリマシテ、唯

ルトキハ之ニ意ジ其ノ議員ノ定數ハ本法施

行前ノ議員ノ定數ニ至ル迄減少スルモノト

ス」トアリマシクノ「本來ノ議員ノ定數ニ

至ル迄減少スルモノトス」ト訂正シタノデ

アリマス、是ハ本法施行後ニ於テ本法以外

ノ原因、例へバ人口ノ増加トカ、町村ノ併

合トカ云フコトニ依シテ、議員定數ノ増加ス

ル場合ヲ豫想シテ、ソレニ對應スル爲ニ加

ヘタ修正デアリマス、尙ホ附則ニ更ニ一項

ヲ加ヘマシテ、本法施行前既ニ召集ノ解除ス

ル受ケマシタ者ニ對シマシテモ、亦本法ノ

適用アルコトヲ明瞭ニ致シタ次第デアリマス、斯クノ如クシテ此修正案ニ對シテ、民

政黨ヲ代表シテ手代木隆吉君ヨリ、政友會ヲ代表シテ松川昌藏君ヨリ、第一議員俱樂部ヲ代表シテ伊豆富人君ヨリ、社會大衆黨ヲ代表シテ中村高一君ヨリ、ソレドム熱心ナル贊成ノ意見ヲ述べラレ、討論ヲ終結シテ採決ニ入リマシタ所、全會一致本修正案ヲ可決致シタノデアリマス、以上委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 委員長ノ報告ハ三案

貨法案、及ビ關稅定期法中改正法律案ノ兩

案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレントラヨミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異

議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、臨時通

貨法案、關稅定期法中改正法律案、右兩案

ヲ併合シテ一案ト爲シ、修正議決シタルモノ

ノデアリマス、三案ノ第二讀會ヲ開クニ御

長ノ報告ヲ求メマス——委員長駒井重次君

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通

利可決セラレントラヨミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異

議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議

案全部ヲ議題ト致シマス

支那事變ニ際シ召集中ノ者ノ選舉權及

被選舉權等ニ關スル法律案

〔第二讀會確定議〕

支那事變ノ爲召集セラレタル者ノ選舉

ノ議員又ハ其ノ選舉ノ當選者ノ資格ニ

關斯ル法律案

〔第二讀會確定議〕

支那事變ノ爲召集セラレタル地方議會

ノ議員又ハ其ノ選舉ノ當選者ノ資格ニ

關斯ル法律案

〔第二讀會確定議〕

支那事變ノ爲召集セラレタル者ノ選舉

ノ議員又ハ其ノ選舉ノ當選者ノ資格ニ

關斯ル法律案

〔第二讀會確定議〕

關稅定期法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十三年三月十五日

委員長 駒井 重次

衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一關稅定期法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十三年三月十五日

委員長 駒井 重次

衆議院議長 小山松壽殿

〔駒井重次君登壇〕

バ、其一つハ、政府ハ如何ナル素材ヲ以テ、又如何ナル量目、形式ヲ以テ、臨時補助貨幣ヲ製造發行スル方針デアルカト云フ質問デアリマス、之ニ對シマシテ政府當局ハ、素材ニ付テハ時局ノ推移ニ應ジ、物資ノ需給ノ狀況ヲ究メ、最モ適當トルモノヲ採用スル方針デアルケレドモ、差當リ十錢及び五錢ノ臨時補助貨幣ニ付キマシテハ、「アルミニューム」ト銅トノ合金ヲ以テ、一錢ノ臨時補助貨幣ニ付テハ、銅ト亞鉛トノ合金ヲ以テ之ニ充テルモノガト云フ答辯デアリマシタ、又其量目及ビ形式ニ付キマシテハ、流用上ノ便宜上、從來現行ノモノノト餘り變リノナイ量目、形式ノモノヲ製造スル方針デアルト云フ答辯デアリマシタ、其質問ノ二ハ、大正六年カラ大正十二年ニ亘ツテ發行セラレマシタ所ノ五十錢、二十錢、十錢ノ小額紙幣ト云フモノハ、非常ニ紙質ガ惡カツタ、其爲ニ流通中ニ汚損シ、或ハ衛生上甚ダ芳バシクナイヤウナ狀態デアッタノデアルガ、今回發行シヨウトル五十錢紙幣ハ、此點ニ鑑ミテ出來ル限り良質ノモノトシテ欲シイノデアルケレドモ、政府ノ方針ハドウデアラウカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ政府當局ハ、今回發行スル五十錢紙幣ハ、從來ノ如ク十錢、二十錢ノモノヲ止メマシテ、五十錢一種トシタト云フコトハ、此流通上ノ點ヲ考慮シタノデアッテ、又五十錢ノ小額紙幣ニ使フ所ノ紙質ト云フモノハ、從來ノモノヨリモ良質ノモノヲ用ヒル積リデアルト云フ答辯デアリマシタ、其三ハ、今回發行セラレマスル所ノ補助貨幣及ビ小額紙幣ノ模様圖案ニ付テハ、現下ノ狀態ニ鑑ミテ、國體ノ精華ヲ發揚スルヤウナ圖案ヲ採用シテ欲シイト思フケレドモ、此點ニ關スル政府ノ所見ハドウダト云フ御尋デアッタノデアリマス、之ニ對シマシテモ政府當局ハ、臨時補助貨幣ニ付テハ、既ニ三月八日ノ官報デ圖案ノ募集ヲシテ居

ル、其圖案ノ募集ノ條件ノ中ニ、日本精神ヲ宣揚スルモノタルベキコトト云フ條件ヲ入レテ居ル位デアルノダ、御越旨ニ副フヤウナ方針デアル旨ヲ答辯セラレタノデアリマス、尙ほ此外ニ臨時通貨ノ發行見込高、發行ノ期限、現行補助貨幣ノ引上げ見込等ニ付キマシテモ、熱心ナル質疑ガゴザイマシタ、之ニ對シテ政府當局ヨリソレノ「答辯ガアッタノデアリマス、其詳細ハ速記錄ニ依ッテ御説本ヲ願ヒタイト存ジマス」次ニ關稅定率法中改正法律案ニ付キマシテハ、政府ヨリ提案ノ理由ニ關シ説明ガアリマシタ後ニ、三月十四日及ビ本日ノ兩日ニ瓦リマシテ、政府委員ト委員諸君トノ間ニ、熱心ナル質疑應答ガ續ケラレタノデアリマス、其詳細ハ速記錄ニ依ッテ御覽ヲ願ヒタイト存ジマスルガ、此改正案ハ主トシテ満洲國ニ產スル所ノ紅松等ノ輸入稅ヲ免除シヨウト云フ趣旨デアリマス、此點ハ第七十一議會ニ於テ、本院ノ希望決議トシテ提案セラレタモノニアリ、其希望決議ノ趣旨ニ副ツテ此提案トナック次第デアルノデアリマス、其他ノ改正ノ點モ大體極メテ簡単ナルモノデアグト存ジマス。

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマス、第三讀會セラレントコトヲ望ミマスセヌ、第三讀會ノ省略シテ、兩案共委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)○議長(小山松壽君) 残餘ノ日程ヲ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレントコトヲ望ミマス○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
 「〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ」
 ○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、明十六日ハ定刻ヨリ本會議ヲ開キマス、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
 午後三時五分散會

○議長(小山松壽君) 兩案ノ第二讀會ヲ開

正誤
 衆議院議事速記録第二十七號中

頁	段	行	誤
六四一	四	二五	我國消費額
四一七	動議	二	我國肥料消費額